



日本触媒

インドネシアのビジネスチャンスとリスク ～ビジネス展開についての現状と展望～

株式会社日本触媒
代表取締役社長
五嶋 祐治朗

りそなアジア・オセアニア財団セミナー

2021年10月13日



五嶋 祐治朗 代表取締役社長

- 熊本大学工学部卒
- 2012年 執行役員（川崎製造所長）
2015年 取締役常務執行役員（生産・技術部門管掌）
2017年 現職
- 働き方改革（D&I/DX等）、M&Aを積極的に実行。
- 長期ビジョン「TechnoAmenity for the Future」を定め、2030年に向けて3つの変革（事業の変革、環境対応の変革、組織の変革）を進める。現在中期計画を策定中。
- 現職就任後、インドネシアにおけるアクリル酸3基目の投資を決定し、現在建設中。

日本触媒グループ 企業理念

TechnoAmenity

私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさと快適さを提供します



真の「豊かさ・快適さ」には、経済的・物質的な側面だけではなく、私たちが暮らすこの地球環境との調和や、多様性・公平性・安全安心などの社会的・精神的な豊かさ・快適さも内包されています。

今後も当社グループは企業理念 TechnoAmenity を実践することで、**持続可能な社会の実現**に貢献し続けます。

社会トレンド ・人口増加 ・高齢化 ・新興国経済の発展
・ニーズ多様化 ・デジタル技術発達 等

社会課題 ・安全安心・健康寿命の実現 ・気候変動問題への対応
・技術発達を支える新素材 等



【日本触媒グループ企業理念】：「TechnoAmenity」
私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさと快適さを提供します



長期ビジョン「TechnoAmenity for the future」

〈2030年の目指す姿〉

- 人と社会から必要とされる素材・ソリューションを提供
- 社会の変化を見極め、進化し続ける化学会社
- 社内外の様々なステークホルダーとともに成長

長期ビジョン「TechnoAmenity for the future」

〈2030年の目指す姿〉

- 人と社会から必要とされる素材・ソリューションを提供
- 社会の変化を見極め、進化し続ける化学会社
- 社内外の様々なステークホルダーとともに成長

〈2030年の目指す姿に向けた3つの変革〉

① 事業の変革

◆ 既存分野から成長分野へのポートフォリオ変革

- ・収益性の高いソリューションズ事業を拡大
- ・事業基盤強化に向けマテリアルズ事業を抜本的に立て直し
- ・DX推進による生産性向上、新たな価値の創出

② 環境対応への変革

◆ 2050年カーボンニュートラル実現に向けたサステナビリティ推進

③ 組織の変革

◆ 成長し続ける組織、多様な人財がいきいきと働く会社への変革

名称 株式会社日本触媒
NIPPON SHOKUBAI CO., LTD.

創業 1941年（昭和16年）8月

資本金 250億円（2021年3月末）

東証一部上場

売上収益 2,732億円（2020年度、連結）

従業員数 4,555名（2021年3月末、連結）

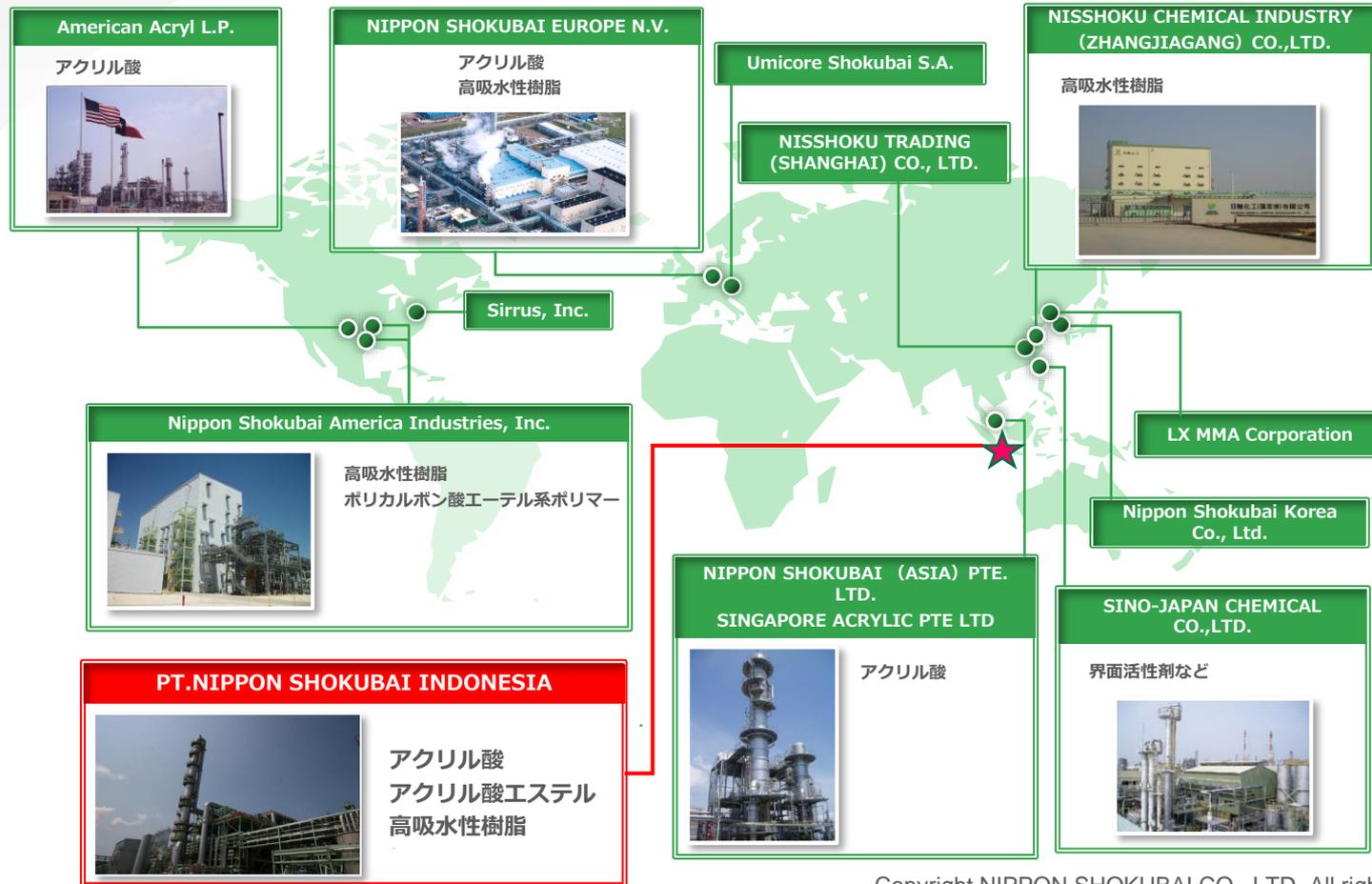
拠点 国内 大阪本社、東京本社、川崎製造所、

姫路製造所および姫路地区研究所、吹田地区研究所

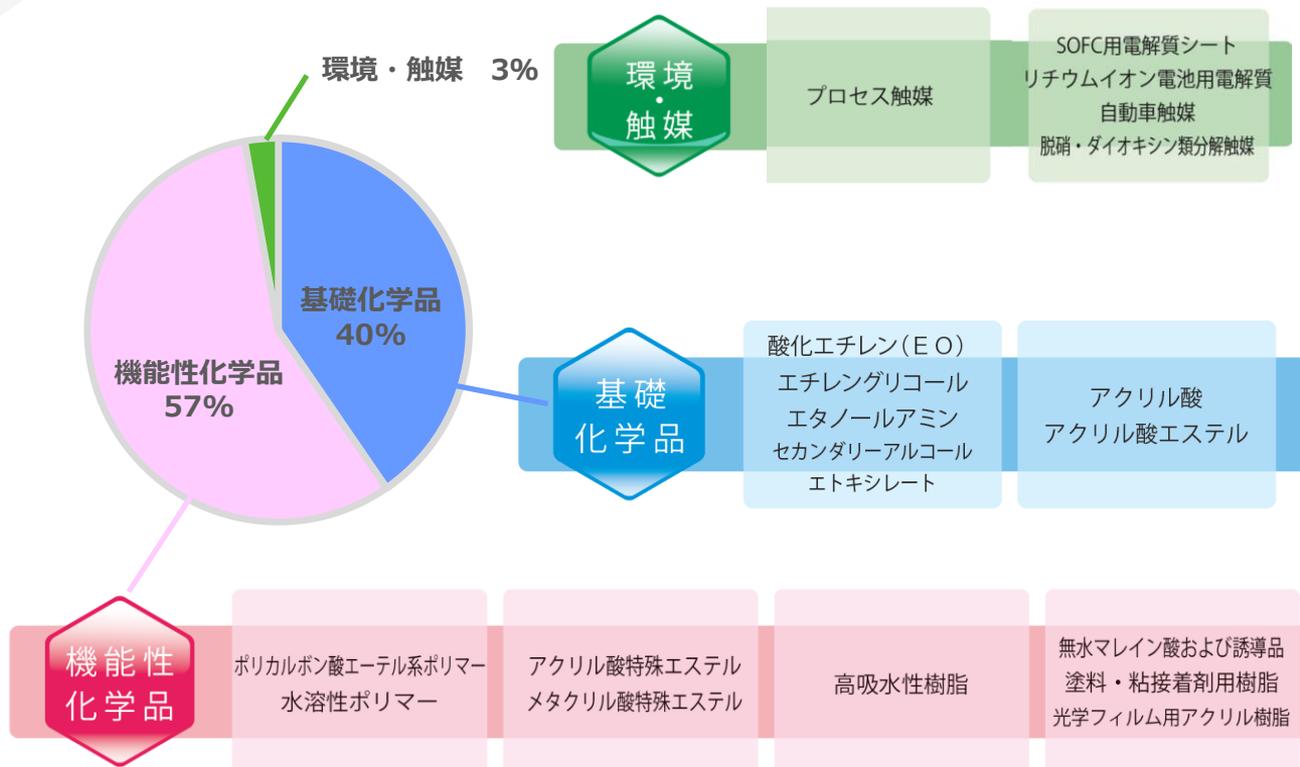
海外 米国、インドネシア、シンガポール、ベルギー、中国、韓国、台湾

おかげさまで
80周年

沿革		技術革新の歴史
<p>「NA Industries, Inc.」(米)設立 (現 Nippon Shokubai America Industries, Inc.) 社名を「株式会社日本触媒」に改称</p> <p>「PT.Nisshoku Tripolyta Acrylindo」(尼)設立 (現 PT.NIPPON SHOKUBAI INDONESIA)</p> <p>「NIPPON SHOKUBAI(ASIA)PTE. LTD.」(星)設立 「NIPPON SHOKUBAI EUROPE N.V.」(白)設立</p> <p>「日触化工(張家港)有限公司」(中)設立</p> <p>「日本乳化剤(株)」(日)及び 「中日合成化学股份有限公司」(台)子会社化 吹田工場閉鎖、同地区は研究開発拠点となる 「Nippon Shokubai Korea Co., Ltd.」(韓)設立 「レナセラピューティクス株式会社」(日)子会社化</p>	1970	プロピレン酸化法による アクリル酸 、 アクリル酸エステル をわが国で初めて工業化
	1974	自動車触媒製造開始
	1985	高吸水性樹脂 本格製造開始
	1987	ポリカルボン酸エーテル系ポリマー製造開始
	1988	
	1991	
	1996	
	1998	
	1999	
	2000	燃料電池材料事業化
2003		
2006	光学フィルム用 アクリル樹脂 製造開始	
2008		
2014	リチウムイオン電池用電解質事業化	
2015		
2019	中分子原薬合成施設完工	



事業別売上収益比率（2020年度）



1970
世界初

アクリル酸の新製法を開発

世界で初めて、プロピレンの直接酸化技術でアクリル酸を工業化しました。これにより、低コストかつ大規模でのアクリル酸の製造が可能となり、**塗料原料**や**粘着剤原料**、**高吸水性樹脂**など、さまざまな**アクリル酸誘導品**を生み出してきました。当社が開発したアクリル酸製造技術と触媒は、世界の大手アクリル酸メーカーで採用されています。

大河内記念生産賞受賞

科学技術庁長官賞受賞



1985

高吸水性樹脂の大規模生産に成功

1985年に**アクリル酸を原料**として、**高吸水性樹脂「アクアリック CA®」**の大規模生産を開始して以来、技術・生産とも世界をリードしてきました。高吸水性樹脂は1gで100~1,000gもの水を吸い取る吸水性と保水性に優れた樹脂で、主に紙おむつに採用され、人々の生活の質向上に貢献してきたほか、砂漠化防止にも活用されています。



2006
世界初

アクリビュア®の商業生産を実現

新規ポリマー設計技術により、高い透明性と、光学特性、耐熱性を兼ね備えた、従来にはない光学フィルム用アクリル樹脂「アクリビュア®」の企業化に成功しました。「アクリビュア®」はテレビやスマートフォン、タブレット端末などの液晶ディスプレイの高性能化（大型化・薄型化）に大きく貢献しています。



2013
世界初

イオネル®の量産化技術を確立

独自製法により世界初の量産化技術を確立し多数の特許権を取得した「イオネル®」（高純度LiFSI）は、リチウムイオン電池の電解質として使われています。広い温度範囲で、電池の寿命、入出力、保存安定性および膨張抑制に効果を発揮します。電気自動車（EV）にも採用され、脱炭素社会実現への貢献拡大が期待されています。



私たちは、たゆむことなく挑戦を続け、事業領域を広げてきました。より長い歴史と豊富な実績を有する生活消費財・建材分野と環境分野に加え、ライフサイエンス分野、情報ネットワーク分野、エネルギー・資源分野でも、新たなコア事業の構築を推進しています。



生活消費財分野では、世界トップクラスの生産能力を持つ紙おむつ材料のほか、家庭用洗剤、塗料、粘・接着剤などの原材料を製造・安定供給し、生活のさまざまな場面を支えています。

建材分野では、コンクリート混和剤用ポリマーや超耐候性塗料用樹脂といった、独自の優れた技術・製品を開発、提供しています。



粘・接着剤 (アクリル酸エステル)



紙おむつ (高吸水性樹脂)



衣料用洗剤 (ソフタノール®)



コンクリート混和剤
(アクアロック®)



建築外装用塗料 (ユーダブル®)

※用途例、()内はその原材料となる当社製品

環境分野では、独自の触媒技術を活かした自動車排ガス処理触媒をはじめ、脱硝、ダイオキシン類分解除去、排水処理など、環境浄化に貢献する製品を提供しています。日本触媒は、豊富な技術と蓄積された触媒づくりに関する膨大なデータを用いて、お客様のニーズに迅速に対応し、最適な触媒を提供することができます。



自動車触媒
(ガソリン車・ディーゼル車)



脱硝触媒、ダイオキシン類分解触媒
(ごみ処理場・火力発電所の排ガス浄化)



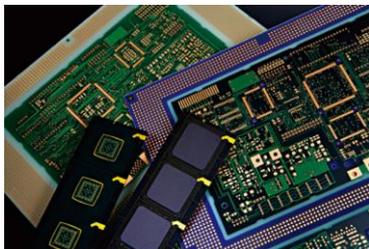
触媒湿式酸化排水処理用触媒



触媒式ダイオキシン類分解除去装置

※当社製品、()内はその用途

情報ネットワーク分野では、半導体やイメージングなどの領域でネットワーク社会の革新を実現するソリューションを提供しています。半導体領域ではIoTやロボット分野に向け高集積・微細化・省エネを可能とする素材を、イメージング領域ではデジタル化に伴い光学材料やインキ材料、3Dプリンター用素材を提供しています。



半導体封止樹脂用微粒子（シーホスター®）



産業用インクジェットインキ（AOMA®）



液晶パネル...光学フィルム用アクリル樹脂（アクリビュア®）
フィルム密着向上剤（エポクロス®）
カラーフィルター用レジスト樹脂（アクリキュア®）

※用途例、（ ）内はその原材料となる当社製品

エネルギー・資源分野では、豊かさと快適さを持続できる社会の実現に向けて、電気自動車用バッテリーの高性能化に寄与する電解質から塗料・接着剤の原材料まで、環境にやさしいモビリティづくりを支えています。

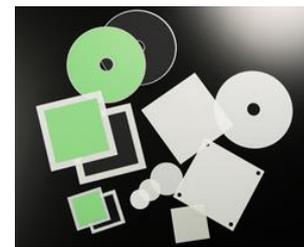
固体酸化物形燃料電池（SOFC）用部材などのエネルギー変換領域や、水処理剤の原材料などの水領域にも注力しています。



水処理剤—冷却水用（アクアリック®L）



樹脂改質剤（マレイミド類）



分散型電源（固体酸化物形燃料電池（SOFC）用電解質シート）



自動車塗料（アクリル酸特殊エステル、メタクリル酸特殊エステル）



電気自動車用バッテリー（イオネル®）

※用途例、（ ）内はその原材料となる当社製品

ライフサイエンス分野では、人々の健康と美、生活の質向上に貢献しています。健康医療領域ではこれまでの技術や知見を活かして中分子原薬受託製造および創薬支援事業を展開し、化粧品領域では独自の素材や技術を活用して次世代化粧品素材を開発しています。



パップ剤（アクアリック®AS）



化粧品原料（合成製品、天然由来製品、加工製品、等）

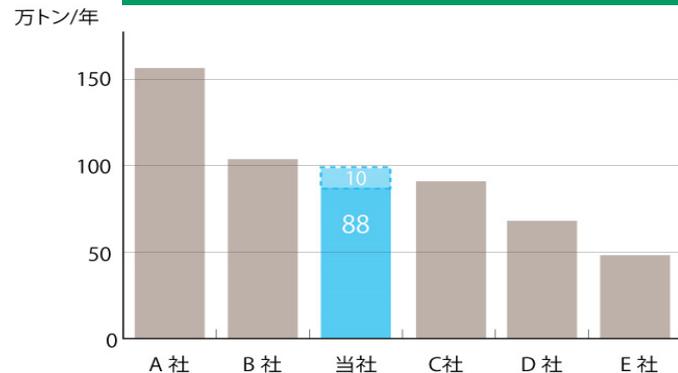


<創薬支援事業>

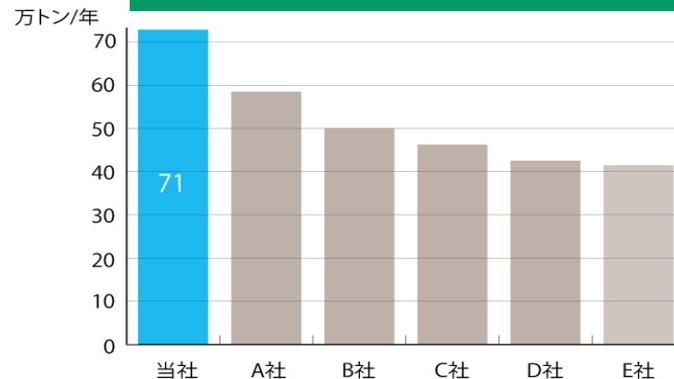
日本触媒は、ペプチド医薬・核酸医薬・DDSの各領域において、有望なバイオベンチャー企業と業務提携および資本提携を行い、日本触媒の製造技術・研究開発力と、提携先の創薬技術の知見を融合させることで、社会と医療の発展に貢献していきます。

※用途例、（ ）内はその原材料となる当社製品

アクリル酸生産能力



高吸水性樹脂生産能力

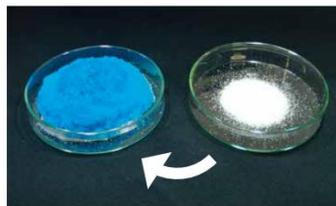


(2021年4月時点、当社調べ)

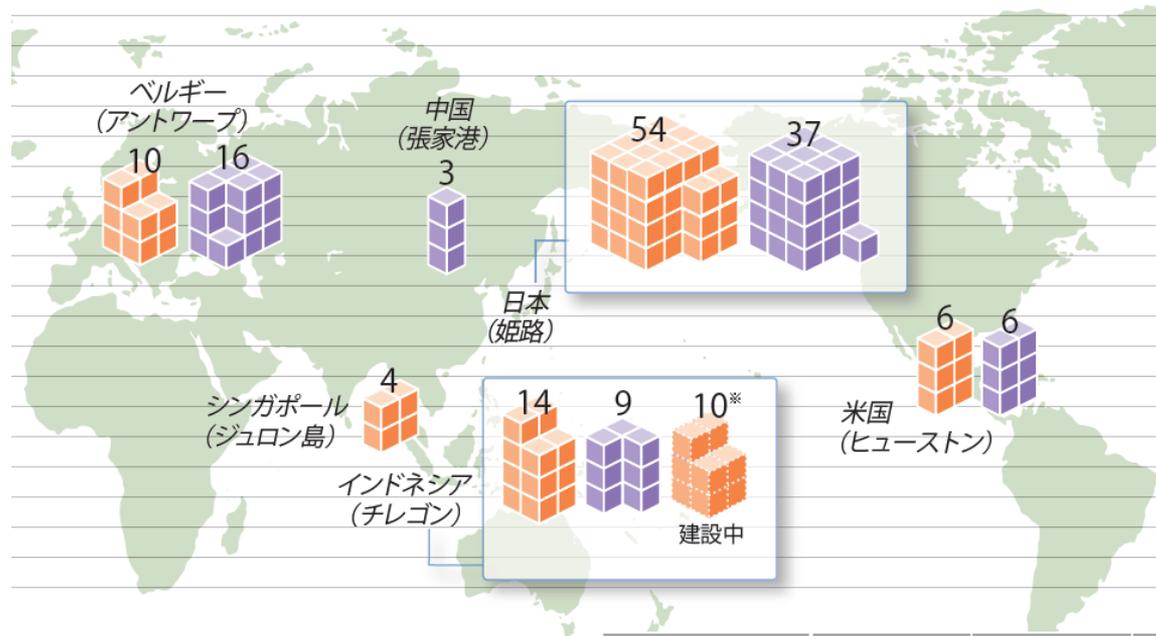
高吸水性樹脂とは？

赤ちゃんのおしっこを吸収してくれる紙おむつは、今では育児に欠かせないものになっています。高吸水性樹脂は、吸水性、保水性に優れた樹脂で、わずか1gの樹脂で100~1,000gも水を吸い取ることができます。また、紙おむつを薄く小さくしたり、赤ちゃんが快適に使えたりできるように、樹脂にはさまざまな工夫が施されています。

約100~1,000倍の水を
吸収できる



アクリル酸/高吸水性樹脂：世界展開



 アクリル酸設備

 高吸水性樹脂設備

 同 (建設中)

数字は生産能力(万トン/年)

	現状	建設中	合計
アクリル酸	88	10*	98
高吸水性樹脂	71	-	71

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、完工予定年は未定

インドネシアの国章である「ガルーダ」がインド神話に登場する神鳥なのをご存じですか？

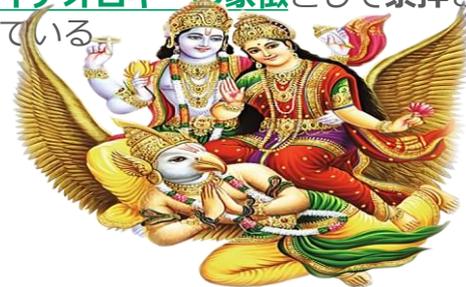
インドネシア共和国国章

「ガルーダ・パンチャシラ」



<ガルーダ>

炎のように光り輝く熱を発する神鳥であり、ヒンドゥー教最高神の一人ヴィシュヌ神(左)の乗り物。知識・力・勇気・忠誠・規律等の美德を表しており、インドネシアのシンボル & イデオロギーの象徴として崇拝されている。



国是：ばらばらであるが、それでもなお一つ
⇒ 多様性の中の統一

<インドネシアにおける宗教伝来の流れ>

～6世紀 ヒンドゥー教

7世紀～ 仏教

14世紀～ イスラム教

16世紀～ キリスト教

現在 イスラム87%、キリスト10%、仏教/ヒンドゥー他3%

⇒ 世界一イスラム教徒が多い国だが

宗教の自由を保障

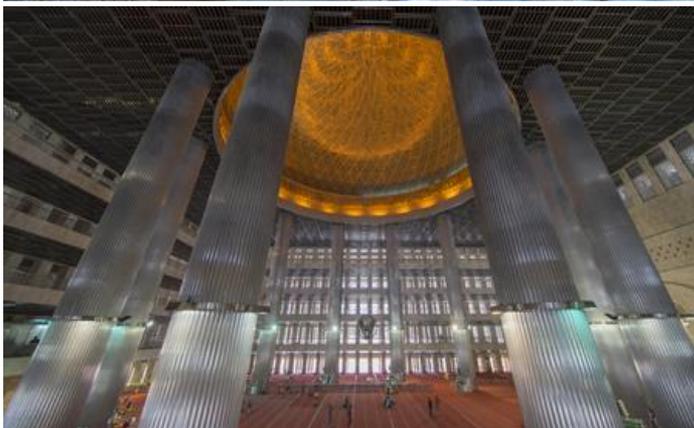


<タナロット寺院>

バリ島のヒンドゥー教寺院

中部ジャワの仏教遺跡 (世界遺産)

<ボルブドゥール遺跡>



<イスティクラル・モスク> ジャカルタにある東南アジア最大のイスラム教モスク

＜ジャカルタのカトリック大聖堂教会＞



＜チレゴン市内にあるイスラム教モスク＞



インドネシアは、「多様性の中の統一」を国是とし、様々なものを受け入れる包容力があり、外資にとっても仕事がし易い！

<人口>

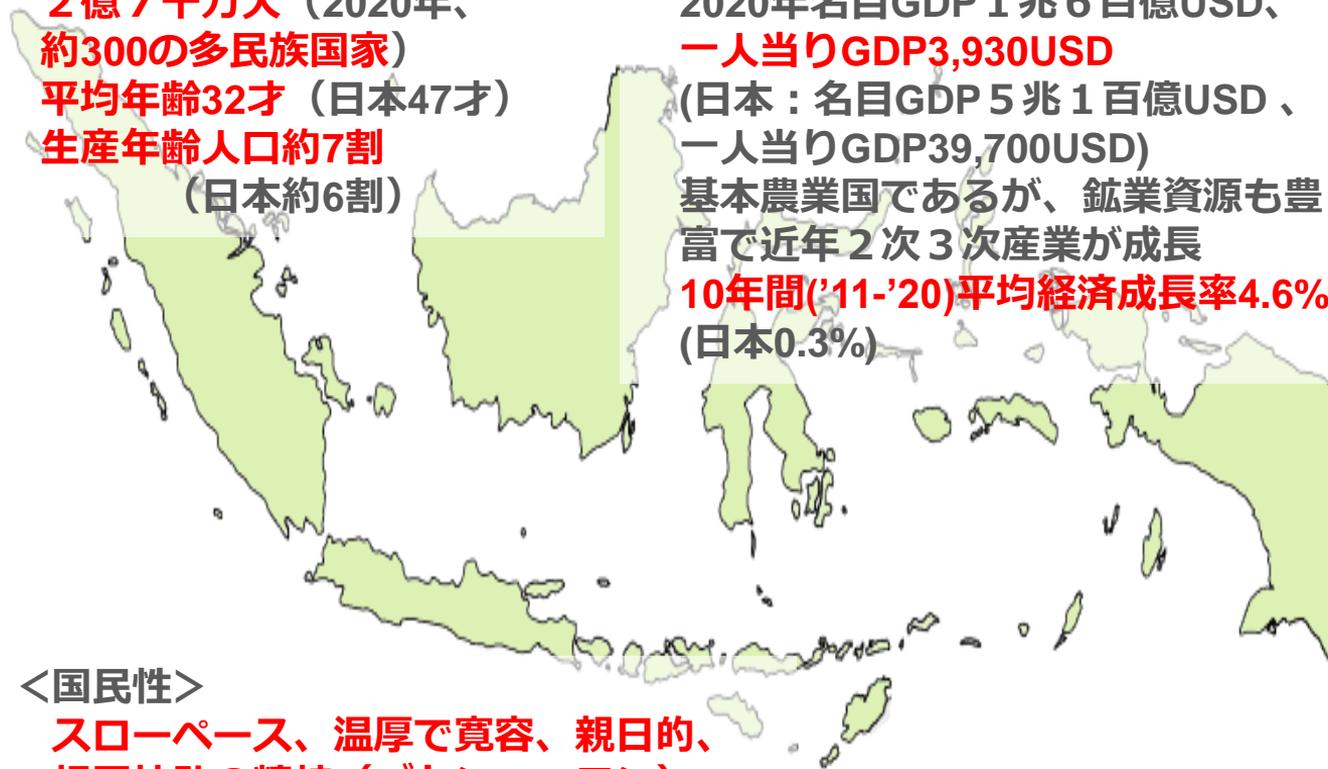
2億7千万人 (2020年、
約300の多民族国家)
平均年齢32才 (日本47才)
生産年齢人口約7割
(日本約6割)

<経済>

2020年名目GDP 1兆6百億USD、
一人当りGDP3,930USD
(日本：名目GDP 5兆1百億USD、
一人当りGDP39,700USD)
基本農業国であるが、**鉱業資源も豊富**
で近年2次3次産業が成長
10年間('11-'20)平均経済成長率4.6%
(日本0.3%)

<国民性>

**スローペース、温厚で寛容、親日的、
相互扶助の精神 (ゴトン・ロヨン)**

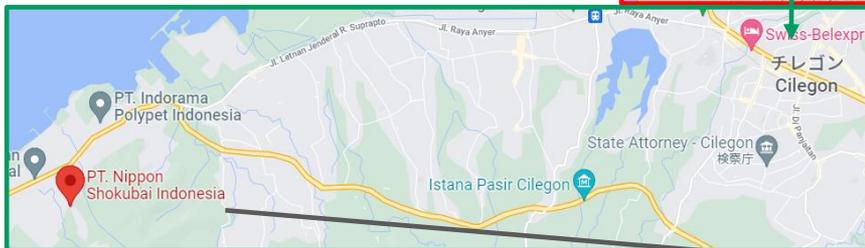




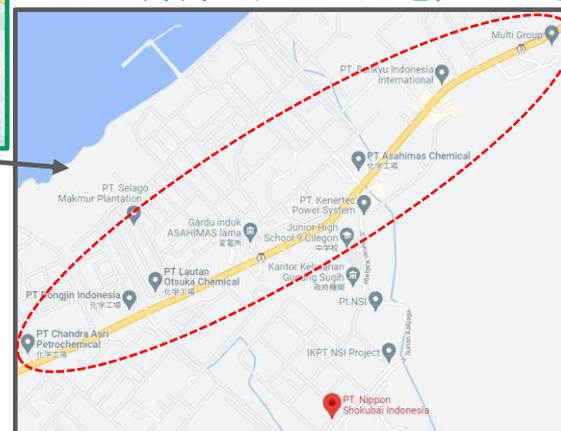
- 1,919千²m (日本の約5倍の面積、東西に5,110kmと長く約1万3千もの島からなる)。紀元前1世紀からインド商人が訪れ、古くから交易が盛ん
- インド洋を始め広く海に囲まれており水産資源が豊富。マグロの漁獲量は日本を抜いて世界一 (2019年：30万トン超)
- 赤道を挟む熱帯性気候



- ・ ジャカルタから車で2時間弱 (100km超)のチレゴン市。



- ・ チレゴン市中心からさらに 20km郊外のアニール地区に立地



- ・ アニール地区には化学工場が集積
 - PT. Lautan Otsuka Chemical (大塚化学の現法)
 - PT. Asahimas Chemical (AGCの現法) 他多数
- ・ 豊かな自然が魅力な半面、脆弱な道路インフラ (しばしば水没) により生活には苦勞が伴う

社名 PT. NIPPON SHOKUBAI INDONESIA (略称NSI)

創業 1996年（平成8年）8月

資本金 120百万USドル（2021年3月末）

売上収益 224百万USドル（2020年度）

従業員数 464名（2021年8月末）

ナショナルスタッフ435名、日本人出向者29名

所在地 Kawasan Industri Panca Puri Jl. Raya Anyer Km 122

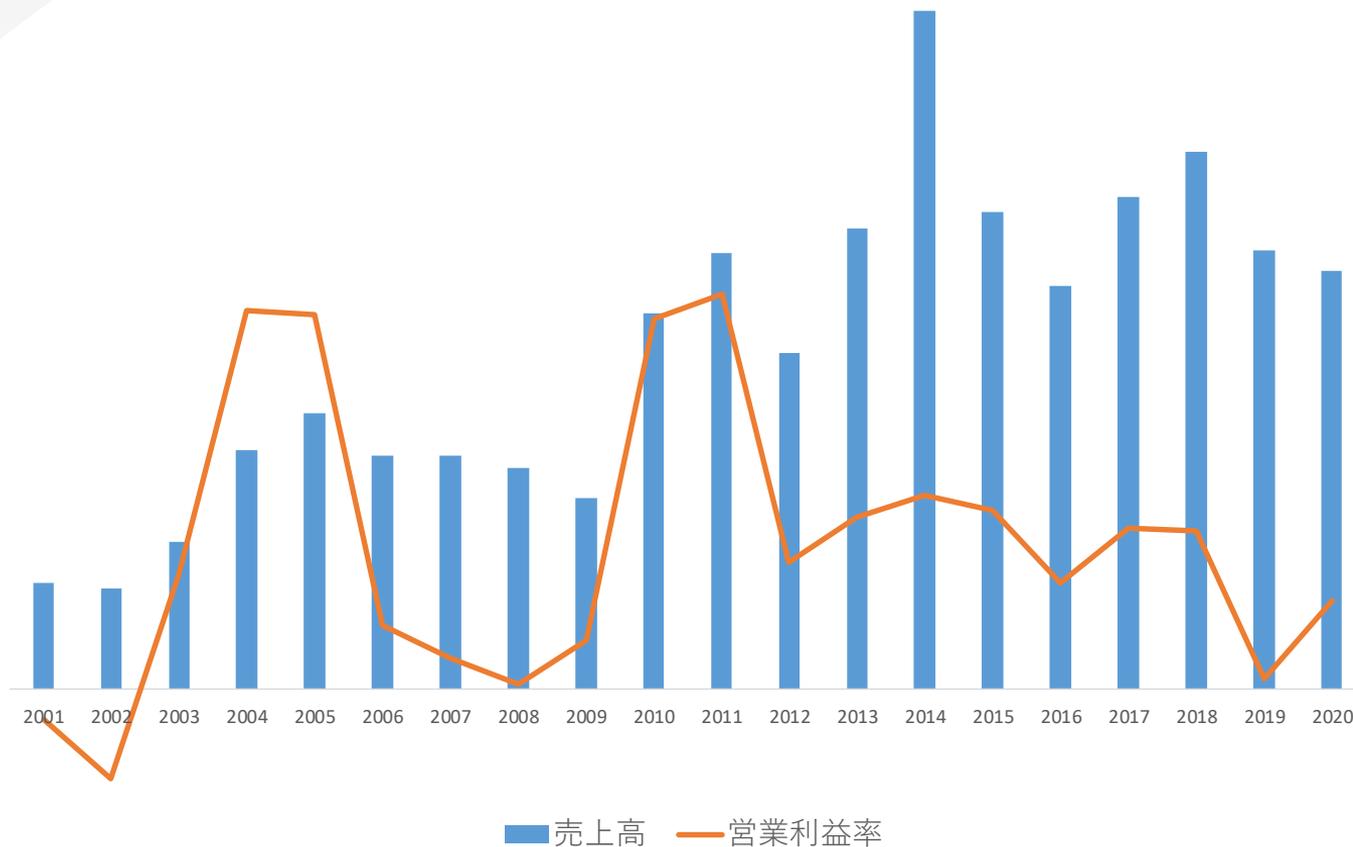
Ciwandan, Cilegon 42447 Banten, Indonesia

生産設備 アクリル酸 14万T/年、アクリル酸エステル 10万T/年

高吸水性樹脂 9万T/年

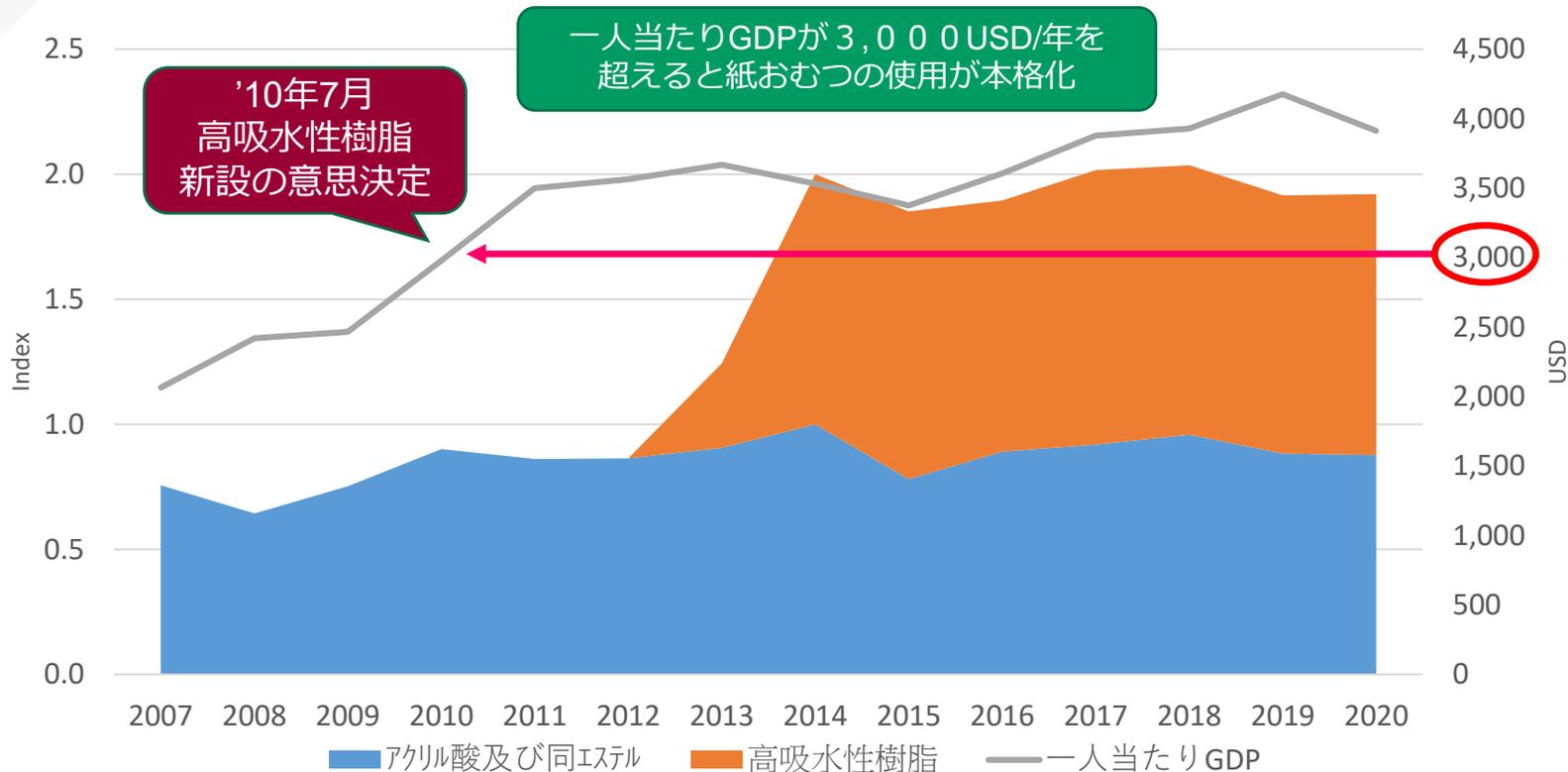


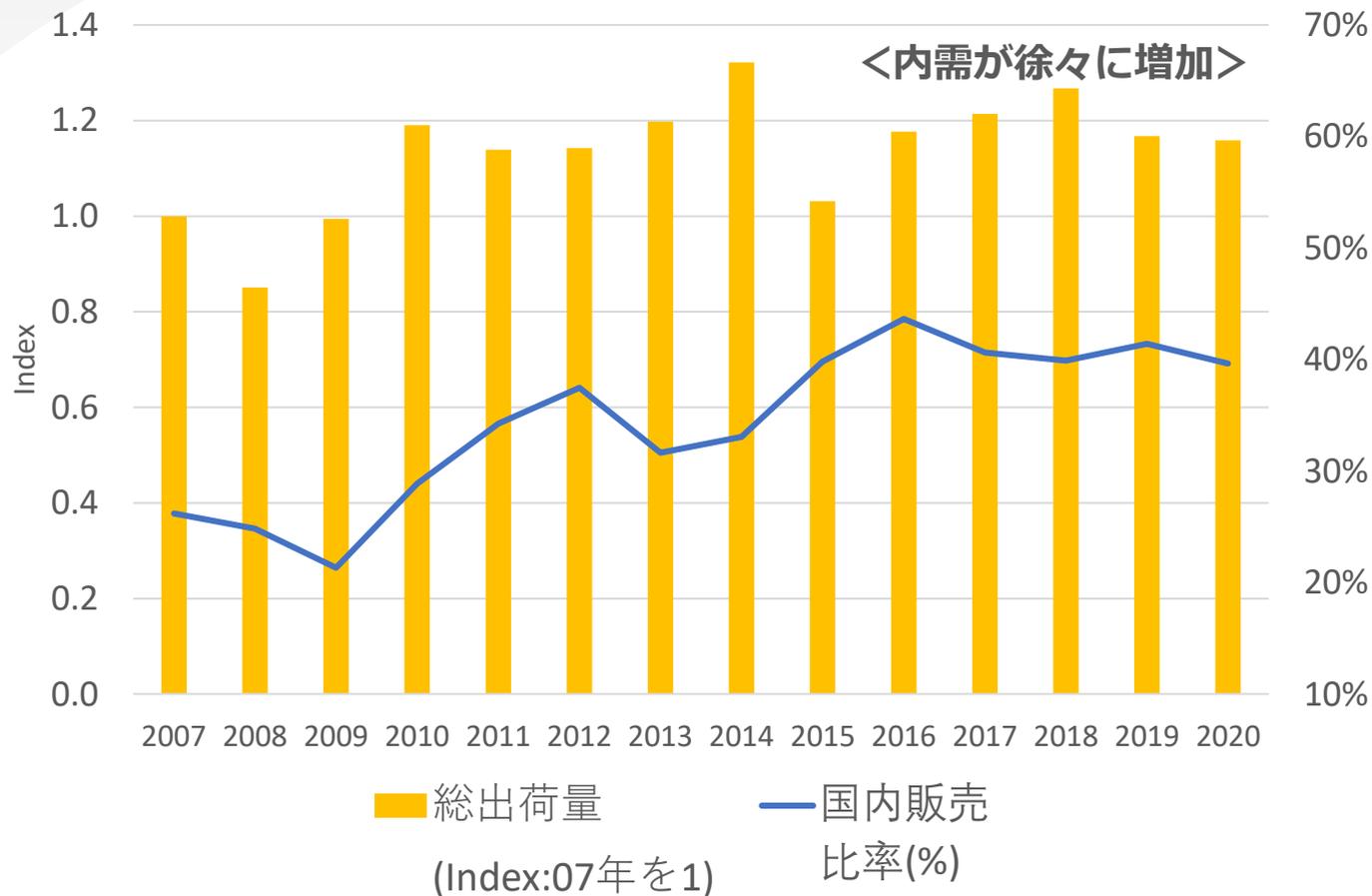
インドネシア 大きな出来事		NSI 沿革
アジア通貨危機 ジャカルタ暴動 → スハルト政権崩壊	1996年8月 1997年7月 1998年5月	「PT.Nisshoku Tripolyta Acrylindo」 (NTA) 設立 (当社50%、トリポリタ45%、トム (現: 豊田通商) 5%)
総選挙実施→民主化	1998年7月 1998年11月 1999年6月 2000年10月	生産設備完成 (アクリル酸6万T/Y、同エステル10万T/Y) 商業運転開始 トリポリタが株主離脱 → 当社株式持分90.9%、トム9.1%
スラバヤ沖地震(M9.1)	2001年1月 2001年5月 2004年12月 2008年8月 2010年7月 2013年10月 2014年6月 2018年9月 2018年10月 2019年9月 2019年12月	「PT.NIPPON SHOKUBAI INDONESIA」へ社名変更 資本金を増資(当社持分93.7%、トム6.3%)し、借入金を返済 コージェネレーション設備導入 アクリル酸2基目増設、吸水性樹脂設備新設 投資決定 アクリル酸2基目 8万T/Y、高吸水性樹脂 9万T/Y商業運転開始 豊田通商が株主離脱 → 当社株式持分100% マングローブ植樹活動開始 アクリル酸3基目増設 10万T/Y 投資決定 (COVID-19により、建設工事遅延中) タックスホリデー取得 (対象設備の商業運転開始から7年間法人税減免 + 2年間法人税50%減免) ハラル認証取得

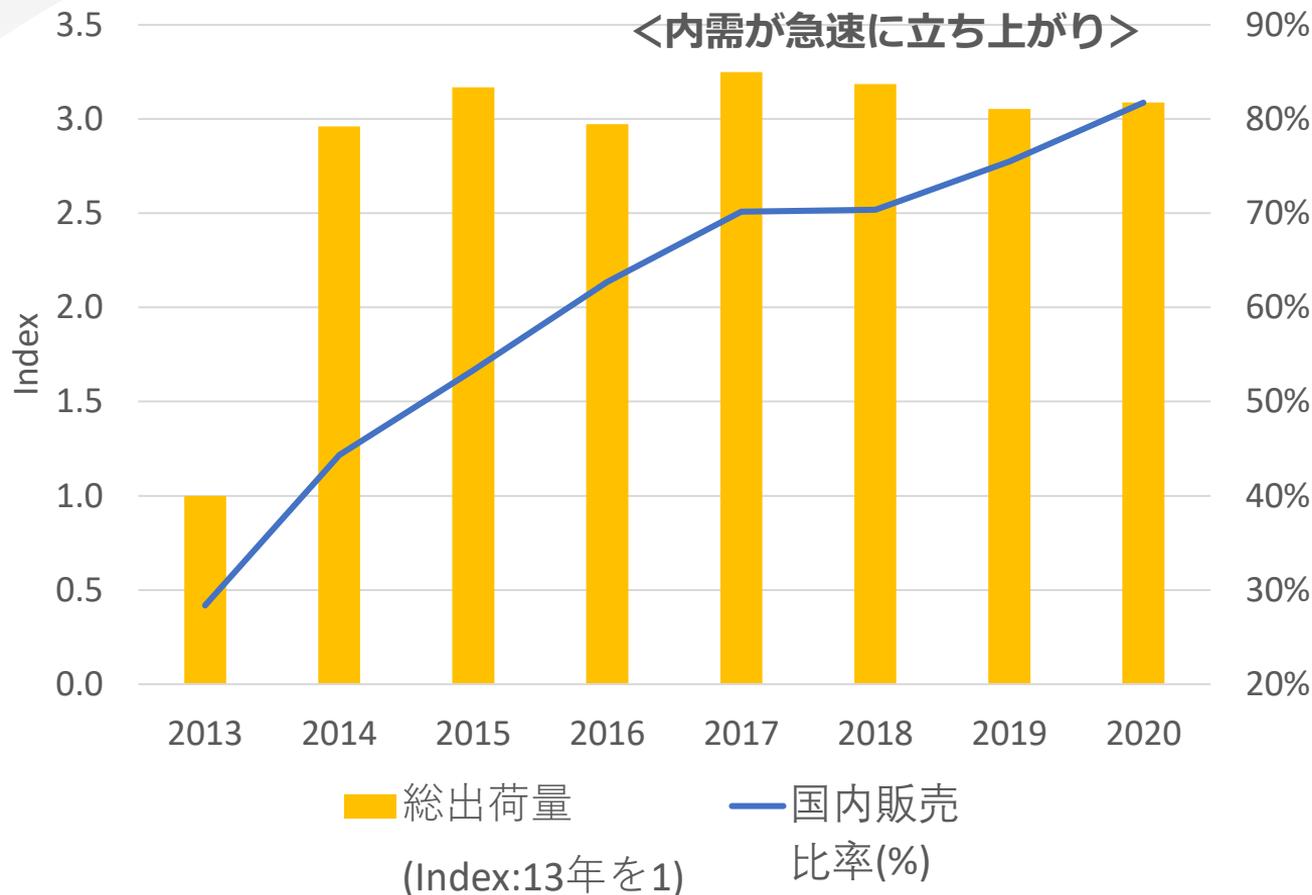


製品別出荷量推移 (Index:2014出荷量を1)

一人当たりGDP (USD)







1) 立地検討 (1995-1996)

コア事業のアクリル酸事業において、経済成長の見込める東南アジアへの進出を検討

候補地	市場規模 (将来性含)	産業 インフラ	現地 パートナー	当社主導権
シンガポール	○(加工貿易)	◎	×	?
タイ	○	○	○	△
インドネシア	◎	△	○	◎

市場の大きさ、**現地パートナー (*) の存在**と当社が**会社運営の主導権 (マジョリティ)**を取れるか、が決め手となり**インドネシア**に決定



トリポリタ (*)
マルカスルタント社長

トリポリタ
ピーター・ヨンCFO

トリポリタ
大株主ステイイトモノ氏

当社社長会田

トメノ平田副社長

※役職は当時

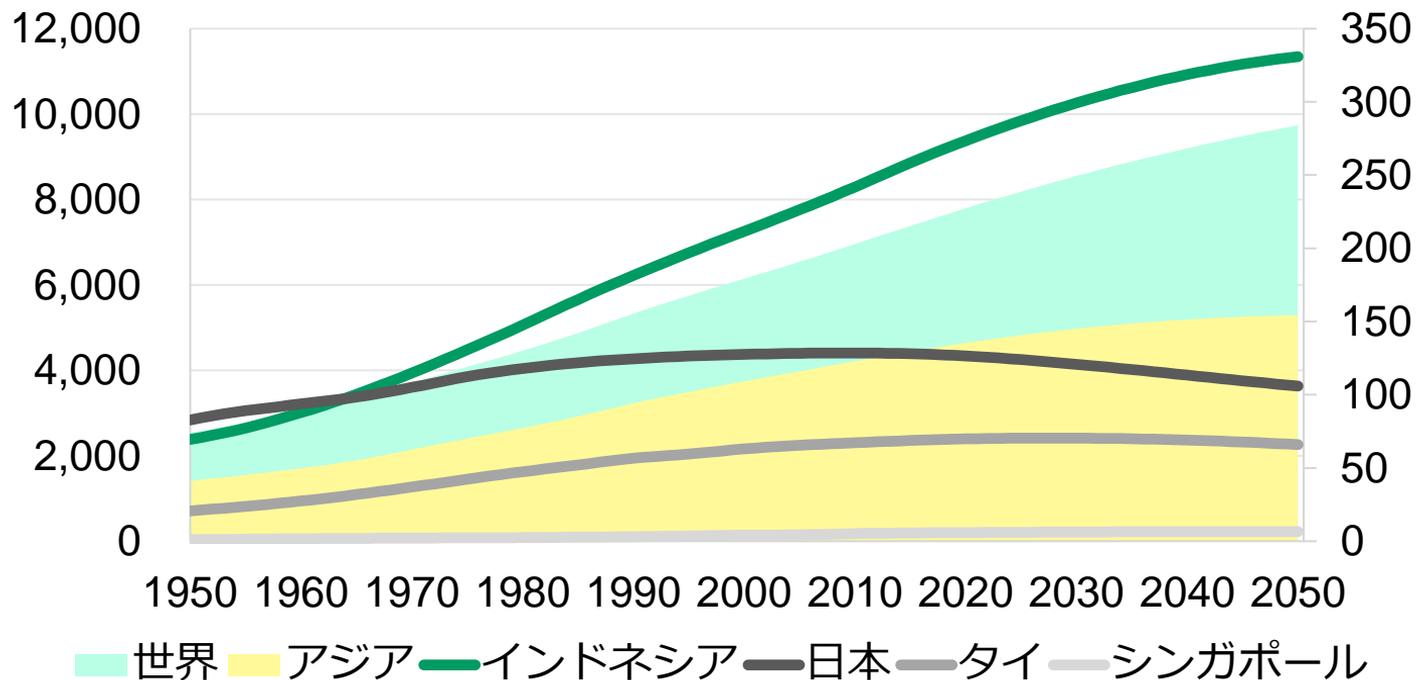
(*) トリポリタ

現地ポリプロピレンメーカーで、原料タカ港湾設備等を所有し、NSIへそれら役務を提供。また、同社従業員がNSIへ多数移籍し活躍。2011年に**チャンドラアスリ (CAP)**に統合。CAPは現在でも原料供給/役務提供等、NSIに欠かせない存在

← 1996年5月

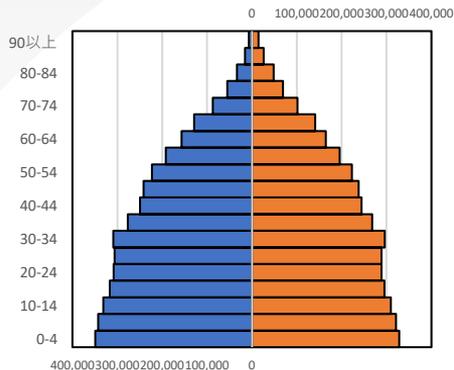
< PT.Nisshoku Tripolyta Acrylindo(NTA : 設立当時の社名) 設立のためのJVA調印式 >

人口推移（100万人）

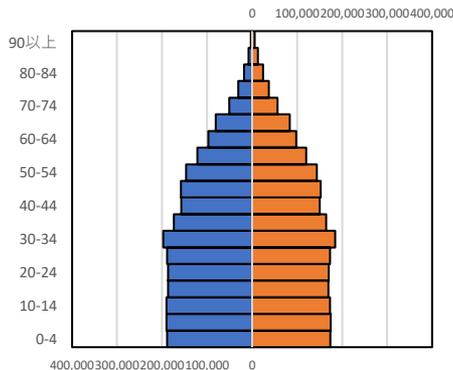


※出典：United Nations 2020年時点
世界・アジアは左軸、他は右軸

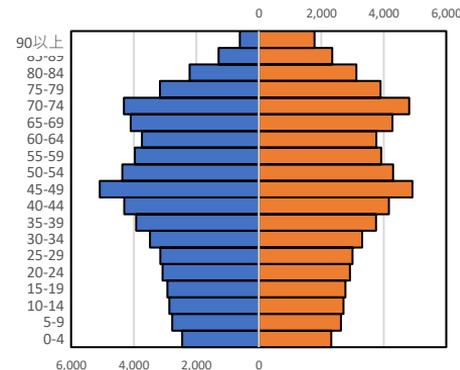
世界



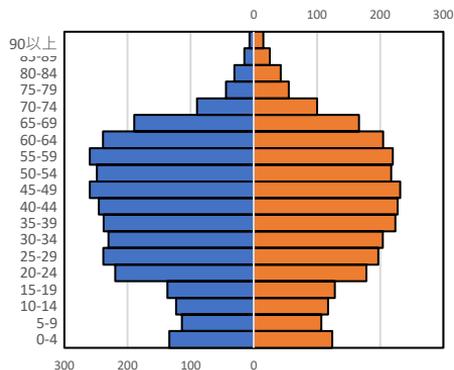
アジア



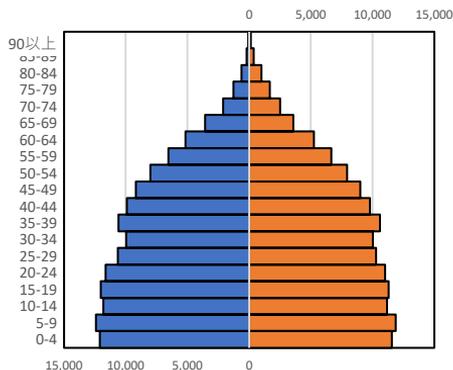
日本



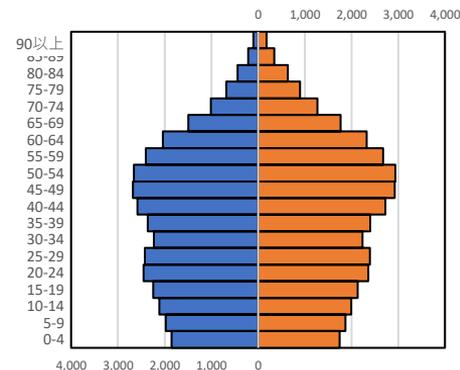
シンガポール



インドネシア



タイ



2) 工場建設 (1996-1998)

工場建設期間中、想定外の事象が発生し、立ち上げ計画が若干の遅延

<97年7月 **アジア通貨危機**>

<98年5月 **ジャカルタ暴動** & **スハルト政権崩壊**>

⇒ **治安悪化**により、建設を一時中断し**日本人出向者の緊急一時帰国**

<日本人出向者において**各種感染症 (腸炎、赤痢等) 罹患者多発**>



<Jan. 1997 : 杭打ち式>



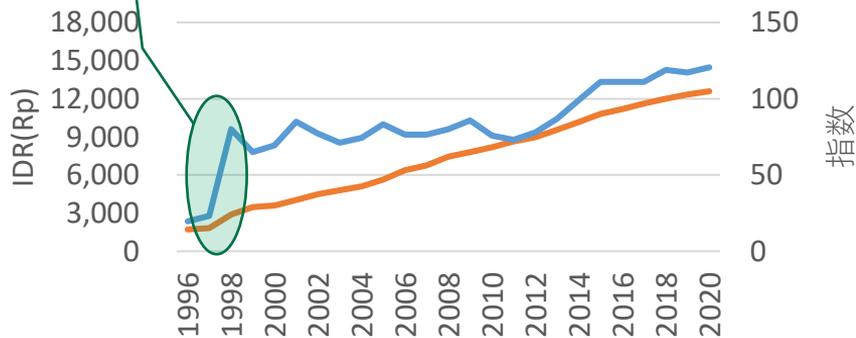
<May 1998 : JKT暴動>

3) 商業運転開始 (1998-2002)

<アジア通貨危機による経済環境悪化の影響>

- 98年11月 アクリル酸(6万T/Y),同エステル(10万T/Y) 商業運転開始
 - ⇒ AA & AES市況低迷が長引き業績不振に苦しむ(操業開始後 4 期連続赤字)
 - ⇒ 収益改善策('01年増資による借入金返済、'02年本社機能を工場へ集約)実行
- 現地パートナー (トリポリタ) 離脱
 - ⇒ 会社名を「**PT.NIPPON SHOKUBAI INDONESIA**」(NSI)へ変更

通貨危機により、
突如Rpの価値が
1/4になり不況
長期化



— 消費者物価指数 (※) — IDR為替レート (Rp/USD)

※2018年を100として

<'97年→現在>

賃金・物価は5~10倍!

- 月給初任給45万(19,000円)
→500万Rp/月(40,000円)
- ゴルフ代25万(11,000円)
→300万Rp/1ラウンド (23,000円)
- ナシゴレン3,000(120円)
→25,000Rp/1人前(200円)

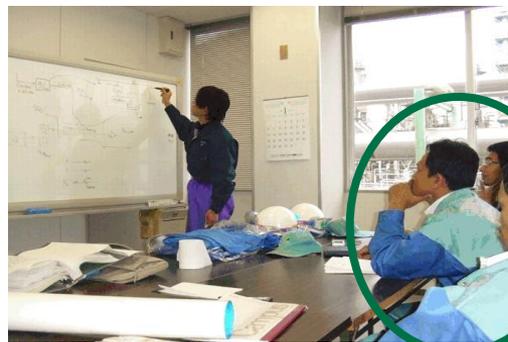
1) 経営基盤確立 (2003-2009)

- ▶ 東南アジアの経済回復によるアクリル酸及び同エステルの需給バランスタイト化
⇒ 前述の収益改善策に加え、**マージン改善により2期連続大幅黒字**（'04-'05年）
- ▶ **リーマンショック**（'08年）による**収益悪化**
⇒ 市況の影響受けやすいアクリル酸及び同エステルだけでは、収益安定化は困難
⇒ **高吸水性樹脂事業フィジビリティスタディ本格化**
- ▶ **不安定な電力、中東勢による従業員引き抜き**
⇒ **コージェネレーション設備導入、種々の従業員リテンションプラン**を実施

＜従業員リテンションプラン：教育＞

- ・ 幹部（候補生含む）の日本研修
（当社姫路製造所、大阪大学協働研究所）
- ・ 海外関係会社他拠点での活用

当社姫路製造所 →
での研修風景



NSI社員

<従業員リテンションプラン：福利厚生>

- ・ハラルビハラル（断食明けパーティー：家族参加可）
- ・従業員へのソフトローン
- ・眼鏡購入補助
- ・勤続5年毎に純金(Gold)贈呈
- ・優良社員へのメッカ巡礼権と関連費用授与（毎年3名）
- ・ファミリーギャザリング（社員旅行：家族参加可）



メ
ッ
カ
巡
礼



ファミリーギャザリング



大阪大学協働研究所訪問

1) 高吸水性樹脂事業立ち上げ (2010-2014)

<紙おむつ需要の立ち上がり>

➤ インドネシア経済の発展に伴い、**紙おむつ需要の急速な拡大**

(1人当たりGDP3,000USD超えると普及局面入り：2010年 3,178USD)

⇒ **日系紙おむつメーカーの進出/増設**が本格化

⇒ 13年10月 **アクリル酸2基目(8万T/Y)&高吸水性樹脂(9万T/Y)商業運転開始**

在日日本大使 鹿取氏
工業大臣 ヒダヤット氏
当社社長 池田
NSI社長 田中
※役職は当時



< Oct. 2013 : アクリル酸2基目 & 高吸水性樹脂設備完工式 >



< Oct. 2012 : 建設中高吸水性樹脂設備 >

2) 経営基盤の強化 (2015-2019)

➤ 脆弱な産業インフラへの対処

⇒ <ロジスティクス> モーダルシフト：トラック → 貨物列車

⇒ <ユーティリティー> 新規受電設備建設、新規冷水塔建設

⇒ <原料調達の安定> 原料メカ(ファンドラアジ、Asahimas)との関係強化

➤ 東南アジアの好調な経済成長に伴う旺盛なアクリル酸需要

⇒ 2018年10月 アクリル酸3基目増設(10万T/Y)の意思決定



< 建設中アクリル酸3基目設備 >

✓ 東南アジア経済と共に成長

- 地域経済の成長に合わせたタイムリーな投資により、ヒト（従業員数）・モノ（生産/販売数量）・カネ（売上収益/利益）の全ての面で、当社グループ最大の海外拠点に！

✓ 外資にとっての仕事のし易さ

- 多様性（ダイバーシティ）を前提とした国民性
- 民主化の進展により外資参入ハードルが低く

✓ 成長を助けるパートナーの存在

- 関係省庁（投資調整庁、工業省、財務省等）
- ビジネスパートナー

1) 足元の課題（2020-2021）

- COVID-19問題（罹患者急増により、医療状況逼迫）
 - ⇒ 従業員の罹患者&隔離者増加により会社運営にも支障
 - ⇒ 日本人出向者の緊急一時帰国（安全確保&ワクチン接種のため）
- 行政面・法制面の整備
 - ⇒ 税務行政・輸出入行政の不透明さ
 - （税務調査指摘事項は、税務裁判にてしばしば逆転勝訴）
 - ⇒ 突然のVISA発給停止等
- ロジスティクス面の整備
 - ⇒ 港湾設備不足
 - ⇒ 慢性的な交通渋滞
 - ⇒ 公共交通機関の未発達



＜大混雑の
タンジュンプリオク港＞

2) TechnoAmenity for the future におけるNSIの位置づけ

- ▶ 2050年のカーボンニュートラル（CN）達成に貢献
 - ⇒ バイオ原料として、豊富なバイオ資源（パーム、油脂等）の活用
 - ⇒ 高吸水性樹脂を含む紙おむつのリサイクルの推進
- ▶ 高成長を見込む東南アジア需要を取り込むための当社最重要拠点の一つ
 - ⇒ オムツ需要（大人用・子供用）の伸び
 - ⇒ ファインケミカル製品（洗剤・建材・電池材料・医薬品原料等）の潜在需要

3) 今後の課題

- ▶ 原料/エネルギーの安定調達スキームの模索
 - ⇒ 東南アジアでの新/増設計画からの石化原料の調達
 - ⇒ クリーンエナジー・バイオ原料・リサイクル原料利用・活用検討
- ▶ 高吸水性樹脂の更なる増設のタイミング見極め
- ▶ 賃金・物価の急激な上昇
- ▶ ファインケミカル製品の顧客ニーズ掘り起こし&供給体制構築

当社は、グループ企業理念「 **TechnoAmenity** ～ 私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさと快適さを提供します」のもと、社会に貢献する志を掲げて事業活動を行っており、サステナビリティ活動の推進はグループ企業理念の実践そのものです。この考えに則り、当社の企業行動を経済・社会・環境の側面から総合的に捉え、企業統治、企業倫理、レスポンシブル・ケア、リスク管理、人権・労働、社会貢献、情報開示を経営の重点領域とし、さまざまなステークホルダーと対話を重ね、企業価値を高める活動を実践しています。

日本触媒の主なサステナビリティ活動

コンプライアンス

啓発活動や各種研修の開催などにより、コンプライアンス体制を強化



啓発活動や各種研修の開催などにより、コンプライアンス体制を強化

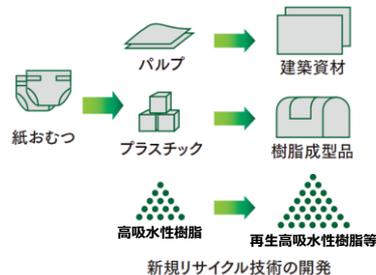
CSRサプライチェーン マネジメント

CSRサプライチェーンマネジメントの強化のため、Sedex、EcoVadisのオンラインプラットフォームなどを活用



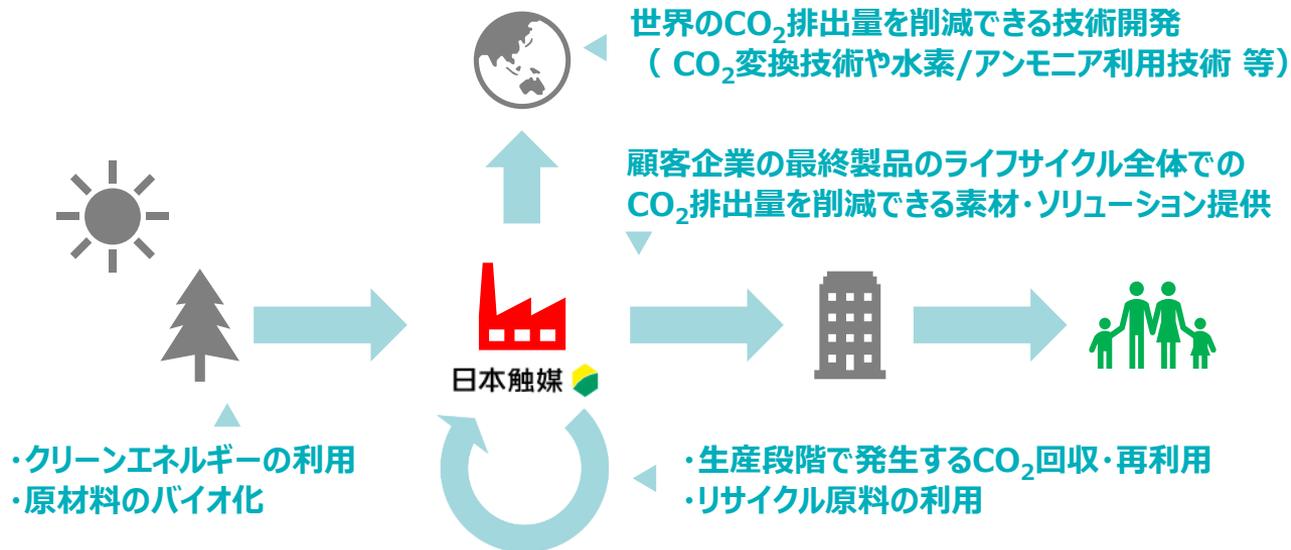
循環型社会実現への 貢献

他社との共同研究により、使用済紙おむつ中の高吸水性樹脂に関する新規リサイクル技術を開発



社内外の様々なステークホルダーとともに成長

2050年カーボンニュートラル達成に貢献



〈これまでの活動内容〉

- ・チレゴン地区工業専門学校設立支援
- ・教育プログラム(奨学金)へ参画('10-)
- ・学生のインターンシップ受け入れ
- ・学生の当社RCイベントへの参加
- ・近隣自治体への寄付 (ヤギ・米等)
- ・NSI工事への近隣住民の優先採用
- ・製品輸送のモーダルシフト('16-)
(トラック→貨物列車：CO2削減)
- ・マングローブ植樹('18-)
- ・女性活用

11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



4 質の高い教育をみんなに



1 貧困をなくそう



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



5 ジェンダー平等を實現しよう



〈奨学金対象生達と〉



〈近隣へのヤギ寄付〉

<マングローブ植樹時の記念撮影：
当社、NSI社員達と>



<2015年 RC Award受賞式>

<これまでの活動結果>

- ・ **Responsible Care's Award** (7回受賞)
安全・健康・環境活動に対する賞
- ・ **Green Industry Award** (最高位を6回受賞)
生産性の向上と廃棄物の最小化により
産業の発展と環境の保護を両立させる活動に対する賞



<Green Industry Award授賞式：カラ副大統領と>

<女性の活躍>

当社グループで他拠点に先駆けて女性オペレーターを採用

2012年に2名採用（シフト勤務） ⇒ 2021年現在 10名

（参考）当社姫路製造所

2020年に4名採用（シフト勤務）



1. インドネシアの魅力 <チャンス>

- ・経済成長への期待

【中間所得層の増加、就労人口の多さ ⇒人口ボーナス期は今後15年継続】

【ハードインフラ需要への期待】

【天然資源の豊富さ】

- ・日本企業にとり、会社運営のやり易さに繋がる国民性

【多様性を受け入れる包容力】 【相互扶助の精神】 【世界有数の親日国】

2. インドネシアの課題・今後の懸念 <リスク>

- ・ハード(ロジスティクス・Utility等)/ソフト(法制度等)のインフラ整備が不十分
- ・行政面(税務他)での不透明さ
- ・賃金・物価の急激な上昇

【リスク】

ハードインフラ・医療面でのリスク ⇒ 中長期的には改善される方向

ソフトインフラ・治安面でのリスク ⇒ 政府が改善の努力（着手中）

政治リスク ⇒ 民主的な選挙が行われており安定している

【チャンス】

「市場」・「労働力」・「資源」は豊か

当社としてのインドネシアの今後について

リスク ≤ チャンス

ポジティブに評価し、伸びる（伸ばすべき）拠点と位置付ける

本日は、
ご清聴ありがとうございました。



日本触媒

TechnoAmenity

私たちはテクノロジーをもって
人と社会に豊かさと快適さを提供します